

## 幕末明治の写真師列伝 第五十五回 内田九一 その二十

明治5年9月12日に、内田九一は「新橋・横浜間鉄道開通の開業式」の写真も撮影している。この写真は「開花写真鏡一写真に見る幕末から明治へ」（大久保利謙監修）にも掲載されている。これは内田九一が下岡蓮杖や鈴木捷雲（注1）らと、新橋・横浜間に新設された鉄道の開通式を写したものだ。新橋・横浜間鉄道開通の営業開始は明治5年10月14日午前10時。現在、この日が鉄道記念日となっている。

内田九一の撮影した代表的な写真としては、石黒コレクション（日本カメラ博物館所蔵）に「内田九一先生写真箱」と書かれた箱に入った、内田九一撮影の六切大鷄卵紙写真が30枚程ある。ここには写真の脇にその写真の題名が墨書きされた六切大の以下の写真がある。

「陸軍省前日比谷ヶ原での陸軍演習」、「竹橋門内側より東方向を見る」、「二重橋」、「桜田門内側から北を望む」、「道灌堀の釣り橋」、「九段坂上」、「九段灯台」、「万世橋越しに外神田方面を望む」、「昌平橋から神田川上流側を望む」、「第一国立銀行」、「江戸橋上より下流方向を望む」、「浜町の旧阿波徳島藩主蜂須賀邸の庭園」、「第一国立銀行」、「築地明石橋から北東を望む」、「延遠館北川正面」、「延遠館南面」、「銀座煉瓦街」、「増上寺三門」、「男坂と女坂」、「新橋駅」、「後樂園」、「上野の森」、「両大師」、「大仏履屋」、「池と茶屋」、「浅草寺本堂」、「新吉原大門」、「旧吾妻橋を通して本所を見る」、「今戸橋」、「浅草橋あたりから柳橋を望む」、「粋な大人の船遊び」、「明治初年の昌平坂」。

また、松戸市戸定歴史館の「松戸徳川家資料目録」第1、2集の写真リストをみると、内田九一の撮影した以下の写真がある。

「徳川昭武肖像（明治五年壬申於東京写之 二十歳）（写真台紙の裏に「東京浅草 横浜馬車道 内田」、東京にて写す）、「秋庭（万里小路陸子）（明治五年十一月九日）（写真台紙の裏に「浅草馬車道 内田）」、「徳川家達」（写真台紙の裏に「東京浅草 横浜馬車道 内田）」、「英照皇太后」、「男子肖像 紀州・徳川頼倫」（写真台紙の裏に「東京浅草 横浜馬車道 内田）」、「男子肖像（万里小路博房）」（写真台紙の裏に「浅草 馬車道 内田）」、「男子肖像」、「婦人像（徳川瑛子か？）」、「東京海軍兵学寮（明治六年一月）」、「東京桜田之景」、「東京柳橋萬八楼」、「東京江戸橋之遠景」、「東京枕橋之景」、「東京金龍山浅草寺」、「東京二重橋之景」、「東京二重橋下馬先御門」、「東京小石川水戸橋」、「東京桜田之景」、「東京桜田御門」、「東京常盤橋御門」、「呉服橋御門」、「東京田安見付」、「東京御本丸表」、「東京坂下御門」、「東京待乳山之雪景」、「東京有明楼雪之景」、「東京竹橋御門」、「東京今戸橋之遠景」、「東京有明楼」、「東京桜之景」、「東京白嶋堤之景」、「東京平川御門」、「東京清水御門」、「昭武肖像（衣冠装束）（明治五年壬申於東京写之二十才（成人式の折に写したものの）」、「昭武肖像（明治）（写真台紙の裏に「東京浅草 横浜馬車道 内田」、A.Tokugawa）」、「昭武肖像（明治）（写真台紙の裏に「浅草 横浜 内田」、A.Tokugawa）」。

明治6年、明治天皇の東北御巡幸の際には、最初、同行写真師として清水東谷が命じられたが、清水東谷はなぜかこれを辞して、内田九一にこれを譲っている。これはおそらく清水東谷が肺病を患っていてその療養のため写真業を休業していたためであろう。しかし実際には、その後この東北御巡幸は明治9年（明治9年6月2日から7月21日）になってしまったため、結局、内田九一は明治8年に亡くなってしまい同行することができなかった。このときの同行写真師は松崎晋二と内田の弟子であった長谷川吉次郎

（注2）で、東北各地の写真撮影をして、その後宮内省に55枚の写真を献上している。

また、「アサヒグラフ臨時増刊 写真百年祭記念号」（東京朝日新聞社、大正14年）の巻末「寫真史料展覽會出品目録」によると、「明治六年一月浅草蔵前内田九一氏寫」とある「井上如水氏肖像（湿板）」の写真がある。

さらに明治7年頃に出された「日本名勝寫真帖」（8.7×6.9）（注3）という内田九一の写真集があり、この写真集の写真は内田九一が撮影したものといわれている。詳細不明の写真も多いが参考までにその内訳は以下に記しておく。

「九段の常燈」、「九段より市中」、「常盤橋ノ遠景」、「三井商社」、「鎧橋の遠景」、「佃島住吉の燈」、「新大橋の遠景」、「新大橋」、「新柳橋の近景」、「百本ぐいと四つ手（両国）」、「東橋の景（吾妻橋）」、「墨田川の舟」、「向島木母寺」、「浅草弁天山より市中」、「金龍山五重塔」、「金龍山浅草寺本堂」、「東京上野大仏堂」、「不忍池弁天財」、「神田より市中」、「同、逆井架橋（大和田原御調練の節）」、「鴻の台遠景（同）」、「同（同）」、「大和田ヶ原御調練」、「皇城御庭の景」、「横浜海岸異人館」、「横浜弁天橋」、「神奈川より横浜の景」、「神奈川より同」、「鎌倉八幡宮」、「同」、「同建長寺」、「片瀬の口」、「熱海伊豆の湯籠」、「伊豆山の湯籠」、「熱海の遠景」、「熱海今井ノ湯」、「東海道富士川ノ景」、「富士川より富士山ノ景」、「富士川」、「富士見峠」、「久能山」、「久能山の山門」、「江ノ島」、「横須賀製鉄所」、「同網打場」、「同遠景」、「異人館」、「箱根湯本」、「塔の澤」、「堂か島の景」、「宮の下」、「木賀の景」、「久能山本社」、「富士川」、「富士の遠景」、「日光ノ大鳥居五重塔」、「同神楽殿宝蔵」、「同陽明門廻廊」、「同東照宮猫の御門」、「同廻り燈籠」、「同東照宮御廐」、「同大蔵院二天門」、「水屋」、「夜叉門表」、「同裏」、「唐木門」、「皇嘉門」、「日光二ツ堂」、「同寶灰塔」、「日光素廻ノ瀧」、「同寂光七瀧」、「同霧降の瀧」、「裏見の瀧」、「同法道の瀧」、「華厳の瀧」、「同中禪寺」、「同中禪寺男體山」、「同龍頭の瀧」、「同大谷川」、「神戸宇治山より市中」、「同」、「鎌倉大佛」。

注1：鈴木捷雲

明治四年東京に開業、貴顕間に高名を謳われた。又逸早く乾板の研究に着手した。晩年鈴木千里に業を譲って長崎稲佐に隠栖した。

（梅本貞雄編『日本写真界の物故功労者顕彰録』（日本写真協会、昭和27年）より）

注2：長谷川吉次郎

内田九一に写真術を学び、明治初年東京に開業した。明治九年、松崎晋二と共に明治天皇の御巡幸に供奉浴道を撮影、明治十一年頃大型写真機を輸入、撮影を行って時人の驚異を得た。

（梅本貞雄編『日本写真界の物故功労者顕彰録』（日本写真協会、昭和27年）より）

注3：『日本名勝寫真帖』（8.7×6.9）

社団法人日本写真協会編『日本写真史年表』（昭和51年）明治7年の項参照『アサヒグラフ臨時増刊 写真百年祭記念号』（東京朝日新聞社）の巻末に掲載された「写真資料展覽會出品目録」より、平田健一氏所蔵、明治6、7年ごろ内田九一氏撮影せるものがある。（森重和雄）